会派視察報告書

令和４年１１月１５日
政 友 ク ラ ブ
代表　岡　秀子
二 條　孝 夫
一本木　秀章
山本　みゆき
大竹　真千子
中 村　直 人

１．　期日　令和４年８月４日（木）～5 日（金）（2 日間）

２．　視察地及び視察事項

（１）埼玉県坂戸市　葉酸プロジェクト

１．坂戸市が目指す健康なまちづくりについて

食を通じた健康なまちづくり

運動を通じた健康なまちづくり

市民協働による健康なまちづくり

２．多面的な展開について

（２）群馬県安中市　ウォーキング・トレイル事業「アプトの道」

１．地域の概要

２．事業立ち上げ経緯

３．事業経過

４．碓氷峠鉄道文化むらと周辺整備

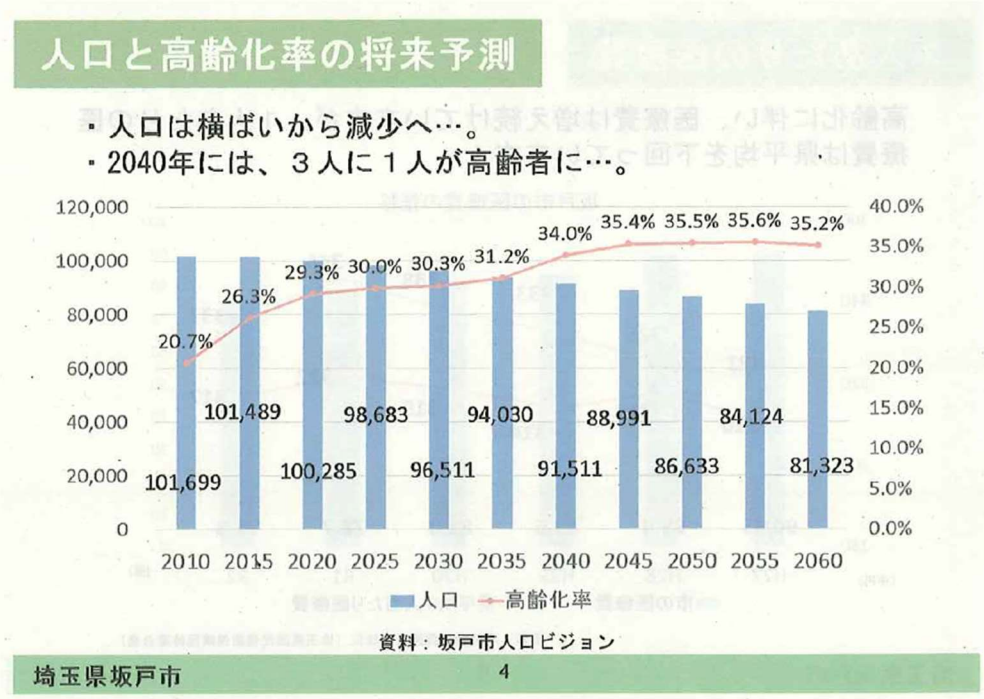
関連事業

財団の設立

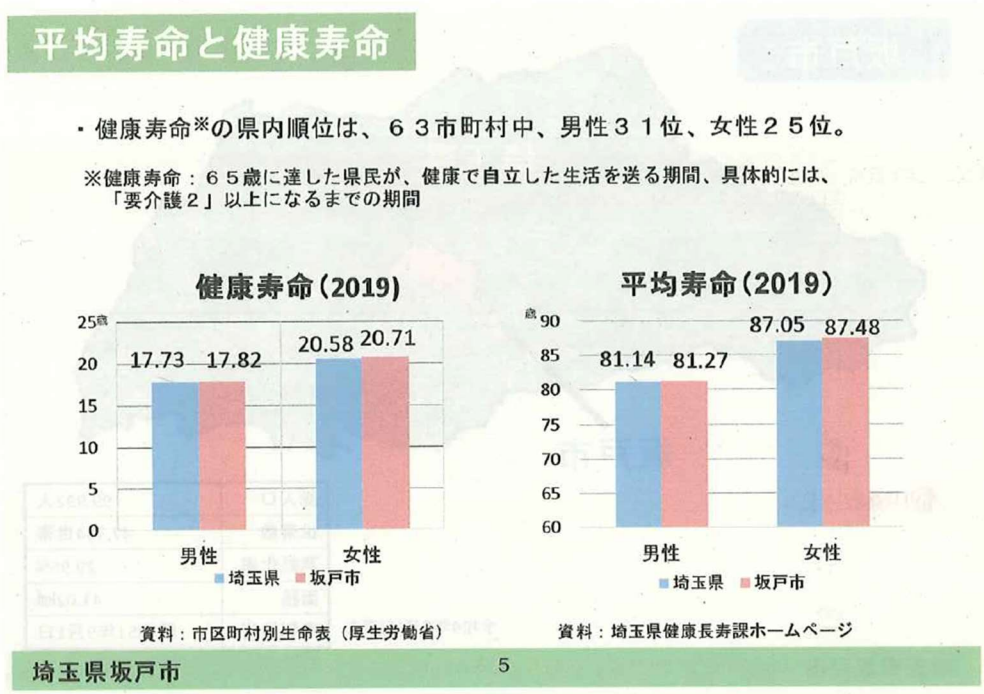
今後の課題・動向

坂戸市　葉酸プロジェクト

1. 坂戸市が目指す健康なまちづくりについて



人口は横ばいから減少へ。２０４０年には３人に人が高齢者に。



坂戸市の健康寿命は、埼玉県内では６３市中男性３１位、女性２５位（２０１９年のデータ）。高齢化に伴い、医療費は増え続けているが、１人当たりの医療費県内平均を下回って推移。

(1 人当たりの医療費のグラフ)

１人あたりの医療費

高齢化に伴い、医療費は増え続けていますが、１人あたりの医療費は県平均を下回っています！

資料：国民健康保険事業状況（埼玉県国民健康保険団体連合会）

高齢化に伴い坂戸市の医療費は増え続けているが、１人当たりの医療費は県平均を下回る。

要支援・要介護認定者数

坂戸市高齢者福祉計画・介護保険事業計画（第8期）

医療費総額に占める傷病別の割合

出典：KDBシステム「地域の全体像の把握」平成27年度累計

・医療費の総額に占める傷病別の医療費の割合を県と比較すると、構成割合は、ほぼ同じですが、精神疾患、透析及び糖尿病がやや高くなっています。

埼玉県坂戸市 8

○全庁的に取り組むための体制整備
坂戸市健康なまちづくり審議会を設置（平成 26 年度）
市民健康部市民生活課に健康政策担当を新設（平成 29 年度）
組織改正により、 市民健康センターに移管（ 令和 4 年度）

○地域資源の活用
市内 3 大学と連携した取組の実施
市内産業と連携した取組の実施

○市民との協働
・ボランティアなど市民と連携した取組の実施

食を通じた健康なまちづくり　－　坂戸市葉酸プロジェクト　－

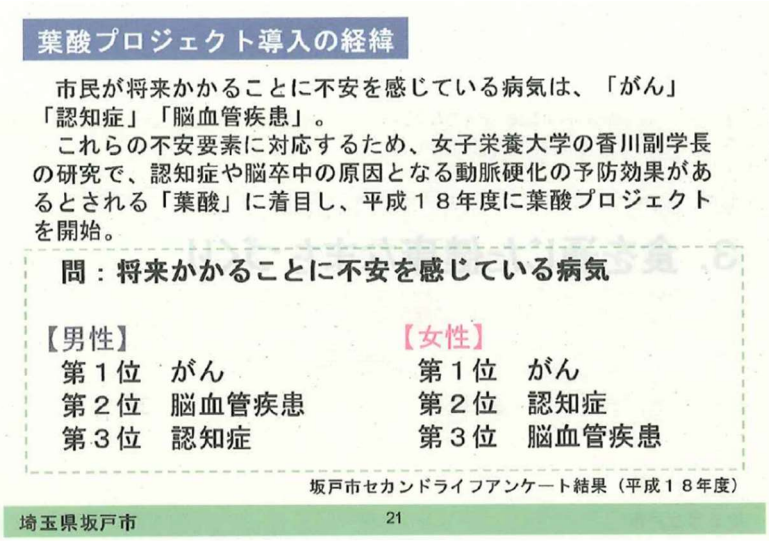
坂戸市では、女子栄養大学の研究を活かし、同大学と協働で認知症や脳梗塞等の予防に効果があるといわれるビタミンＢ群の一種である葉酸（ようさん）を １ 日４００マイクログラム摂取する運動を進めている。

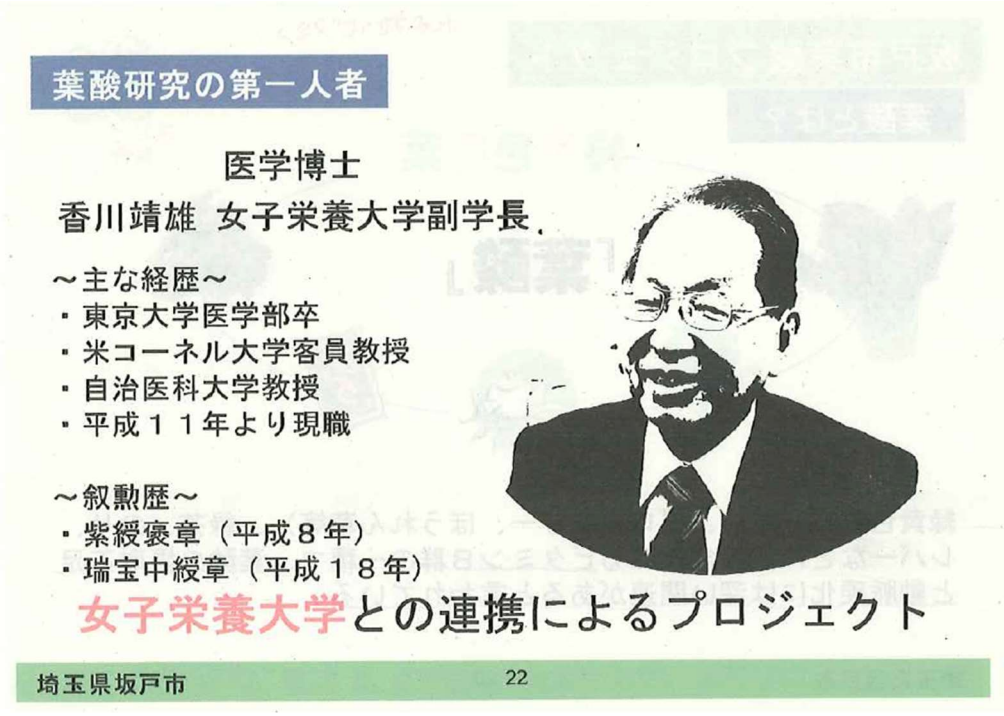
厚生労働省が定める食事摂取基準では、日本の成人の １ 日の推奨量は２４０マイクログラムとされているが、日本人の約１５％の方は、遺伝子の関係で、体内で葉酸を活用する能力が低くなっている。遺伝子的に葉酸を代謝しにくい体質の方でも葉酸を １ 日４００マイクログラム摂取することで十分な効果があることが分かってきており、坂戸市では、成人の １ 日の摂取必要量を４００マイクログラムとし、ほうれん草やブロッコリー等の葉酸を多く含む「みどり色野菜」を中心に摂取するように呼び掛けている。

葉酸は、タンパク質や細胞新生に重要な役割を担っている。細胞増殖が盛んな胎児が正常に発育するために必須なビタミンであり、葉酸を十分に摂取することで神経管閉鎖障害の発症リスクを低減することが、多くの研究から明らかにされている。葉酸は、特に妊娠期や授乳期のお母さんにとって、必要不可欠な栄養素とされている。そのため平成１４年から母子健康手帳にも葉酸に関する記述が掲載されるようになり、厚生労働省が定めている食事摂取基準では、妊婦は １ 日４８０マイクログラムの摂取が推奨されている。

葉酸は水溶性ビタミンに分類されるビタミン B 群の一種で緑茶やブロッコリーに多く含まれるビタミン。生命にとって一番大事なＤＮＡを合成するときに必要なビタミンであり、体の中で神経細胞や血管の細胞を壊していくホモシステインを減らしていく働きがある。

《葉酸が多く含まれる食品》
えだまめ、ほうれんそう、小松菜、ブロッコリー、グリーンアスパラ、いちご、焼き海苔、えのきたけ、緑茶、すいおう(葉)





香川教授の YouTube

動画タイトル		QRコード	リンク
(1)葉酸の働き			(1)葉酸の働き <外部リンク>
(2)遺伝子との関係			(2)遺伝子との関係 <外部リンク>
(3)摂取方法とサプリメント			(3)摂取方法とサプリメント <外部リンク>
(4)食材選び・調理の工夫			(4)食材選び・調理の工夫 <外部リンク>
(5)一食で150μg摂る工夫			(5)一食で150μg取る方法 <外部リンク>
(6)葉酸リッチなレシピ紹介			(6)葉酸リッチなレシピ紹介 <外部リンク>

【食と健康のプランニングセミナー】

成人が１日に摂取する推奨量は、　２４０μｇ（厚生労働省：日本人の食事摂取基準）とされているが､日本人の１５％は、遺伝子の関係から体内で葉酸を活用する能力が低くなっている。また、高齢者は天然の葉酸を活用できる能力も低下する。このことから、半年間のセミナーでは、講義をはじめ、 血液検査、 食事調査などを行い、体質や葉酸摂取量に合わせた個人毎の食事アドバイスにおいて、　野菜などから葉酸を１日４００μｇ摂ることを呼びかけている。

－　セミナーの流れ　－

１）　葉酸についての講演

はじめに、 女子栄養大学の香川靖雄副学長を講師に、葉酸の働きや必要性について学ぶ。諸外国の取組など最新のデータに基づく葉酸の健康効果の説明に、 葉酸が乳児から高齢者まで、誰もが必要なビタミンであることについての理解が深まる。

２）血液検査、遺伝子検査、尿検査、　食事調査

血液検査では血液中の葉酸値や動脈硬化の危険因子である血中ホモシステイン値を調べる。　遺伝子検査は血液から遺伝子を抽出して４種類（葉酸、 高血圧、肥満２種）の遺伝子多型を調べる。また、　食事調査では、　普段の食事の傾向を知るために、あらかじめ記入していただいた調査票をもとに栄養士の個別面談により、習慣的に何をどれだけ食べたか聞き取りをする。

３）血液検査の返却・説明、　個別栄養アドバイス

２の血液検査及び遺伝子検査と食事調査の結果説明を行うとともに、個別アドバイスを行う。血液検査からは、血液中の葉酸値やホモシステイン値といった体内の状況がわかる。遺伝子検査からは　「葉酸が体内で働きにくい」　「高血圧になりやすい」　「脂肪を貯め込みやすい」といった体質(遺伝子型)　がわかる。体質を変えることはできないが、不利な体質を持つ人であっても日々の食事を工夫していくことで、　動脈硬化のリスクを下げることにつながる。食事調査結果からは日々の食事の傾向がわかる。これらの結果に基づいて栄養士が個別栄養アドバイスを行う。結果説明を受けて、「葉酸を意識して摂ろう」「健康のためにウォーキングしよう」などの気持ちが高まることがアンケート結果からも見られる。

４） 食事教室

日々の食生活の中で、 葉酸の摂り方で工夫していることや、難しいことについて参加者同士でグループワークを行います。「味噌汁は具沢山にして野菜をたっぷり食べる」「冷凍野菜を活用する」など、他の参加者から食事の工夫のヒントを得て、日々実践をし、自身の食生活を改めて振り返る機会となっている。

５） 運動教室

運動は、健康的な体型の維持や体力、筋力の向上､フレイル予防等様々な健康効果がある。「誰でも楽しく取り組める」「継続できる」 をテーマとした運動教室では、正しいウォーキング姿勢のチェックやグループを作りじゃんけんゲームなどを行う。食生活の改善と運動の実践により、 さらなる健康増進が期待される。

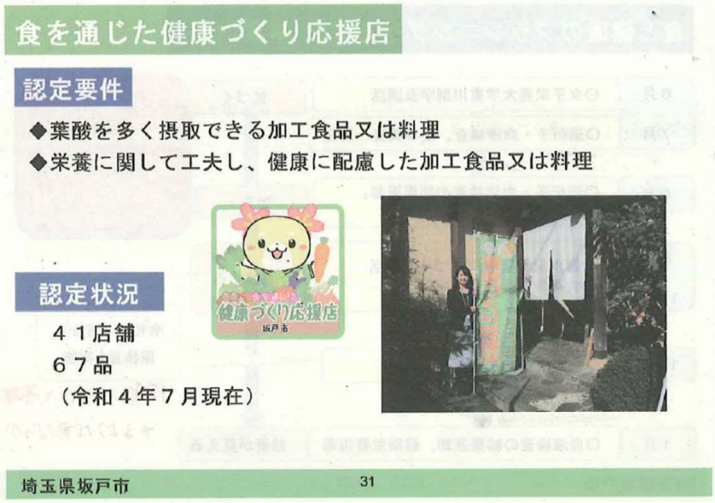
６）血液検査、 食事調査（２回目）

セミナー開始から数か月の健康行動の取組の成果を確認するため、 2 回目の血液検査、食事調査を行います。

７）血液検査の返却・説明、個別栄養アドバイス

6 の血液検査及び食事調査結果をもとに、今後の望ましい食習慣の継続に向け、改めて個別栄養アドバイスを行う。セミナー初回の採血後、各々が健康づくりに取り組んだ結果、 血液中の葉酸値やホモシステイン値に改善が見られた方、 野菜摂取量が増えた方や活動量が増えた方など健康行動につながっている。

【食を通じた応援店事業】



食を通じた健康づくり応援店

認定要件

◆葉酸を多く摂取できる加工食品又は料理
◆栄養に関して工夫し、健康に配慮した加工食品又は料理

認定状況

４１店舗
６７品
（令和４年７月現在）

埼玉県坂戸市 31

げんき満開メニュー・健康応援食品の一例

レバニラ炒めセット

ニラそば

PAOPAOロール

埼玉県坂戸市 33

－　協力団体・企業　－

元気にし隊 市民みんなの健康づくりサポーター

「元気にし隊」は、毎年度、市の呼びかけで集まった市民メンバーで構成されたボランティア組織です。

坂戸市健康なまちづくり計画を推進するために、「食育」や「運動」、「歯科保健」、「こころの健康と社会参加」の４つのテーマで活動しています。

葉酸や減塩の必要性についての地域出前講座や、ご当地体操（さかどリフレッシュ体操・さかど健口体操）の普及啓発、地域活動を紹介する情報紙の発行など、市と協働で自発的に坂戸市民の健康づくりに関する活動を行っています。

坂戸市食生活改善推進員協議会 食を通じた健康づくりの案内人

「坂戸市食生活改善推進員協議会」は、「私達の健康は私達の手で」をスローガンに、食を通じて地域での健康づくりを進めるボランティア組織です。

骨粗しょう症予防をテーマとした料理教室では、カルシウムやビタミンDを多く摂取できる調理方法を丁寧に伝えています。

他にも、定期的に会員の自主研修会を実施しており、最新の健康づくりについての知識を取り入れ、地域での望ましい食生活の実践に向けた取り組みを進めています。

ハウスウェルネスフーズ株式会社

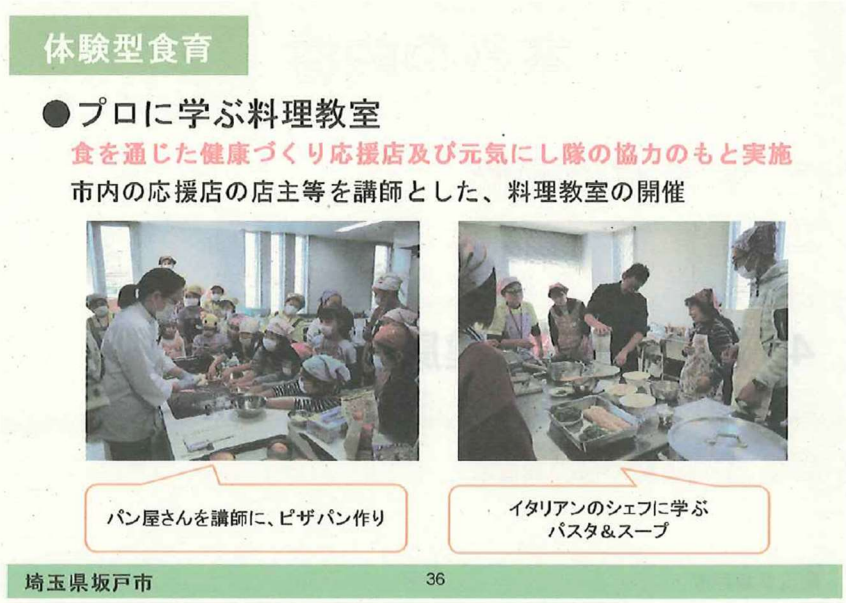
「ハウスウェルネスフーズ株式会社」は、ハウス食品グループの一員として、「明日への健康なくらしに奉仕する」という企業理念を掲げ、健康食品事業を担っている企業です。

平成２２年２月には、女子栄養大学と産学連携協定を結んでおり、共同で栄養強化米の商品開発を行い、平成２８年１１月には、坂戸市と「坂戸市葉酸プロジェクトに関する連携協定」を結びました。

葉酸の普及啓発の一環として、婚姻届や妊娠届を提出された市民の方に栄養強化米を進呈するなどし、葉酸プロジェクトの推進や葉酸の普及啓発において連携及び協力をしています。

House ハウスウェルネスフーズ株式会社

【体験型食育】



【多様な食育】

子供から高齢者まで、 世代別の食育を展開。

〇保育園

野菜作りやクッキング体験の実施。

〇児童センター

幼児から児童が楽しく学べる料理教室の開催。

〇小学校 中学校

小学５年生から中学２年生に食育プログラムを実施。

地場産野菜、 葉酸ブレッド、ブランド野菜を学校給食に導入。

〇市民健康センター

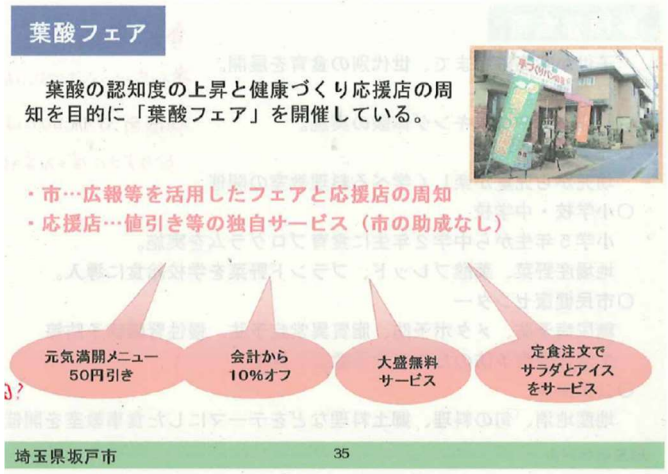
糖尿病予防、メタボ予防、 脂質異常症予防、 慢性腎臓病予防等

生活習慣病予防のための食事教室を開催。

〇公民館等

地産地消 旬の料理 郷土料理などをテーマにした食事教室を開催。

【その他の取組み】



運動を通じた健康なまちづくり

ウォーキングによる健康づくり（H２９～

概　要

・公共施設等に設置されているリーダー（歩数の読み取り機）にかざして歩数に応じたポイントを獲得！ポイントに応じて抽選で賞品が当たります。

・本市と健康づくりに関する連携協定を締結している企業に協力いただき、市民限定抽選会や健康講座を実施

- 対　象：18歳以上の市民
  ※令和4年6月現在の参加者　2,727名

期待する効果

・健康づくりにインセンティブを取り入れることにより運動に無関心な層の参加を期待。

・副次的効果として医療費の抑制効果。

ウォーキングによる健康づくり

・タブレット端末を市内8つの全公民館に設置。

・公民館を拠点としたウォーキングコースも活用。

・そのほか、主要な公共施設や民間企業にも設置、市内に全20か所以上！

ラジオ体操普及促進

目的

市民の健康増進と地域コミュニティーの活性化

支援

・講習会の実施
・講師派遣
・指導者の養成
・ＣＤの配布

活動団体

７団体
（夏休み支援団体）

運動教室の開催

○高齢者福祉課
　介護予防サポーター養成講座、公園の遊具を活用した運動教室などの介護予防事業を実施。地域の介護予防活動組織の育成・支援

○公民館等
　骨盤体操やヨーガ、ウォーキング教室など市民が気軽にできる運動教室を開催。

市民協働によるまちづくり

市民みんなの健康づくりサポーター「元気にし隊」

趣旨

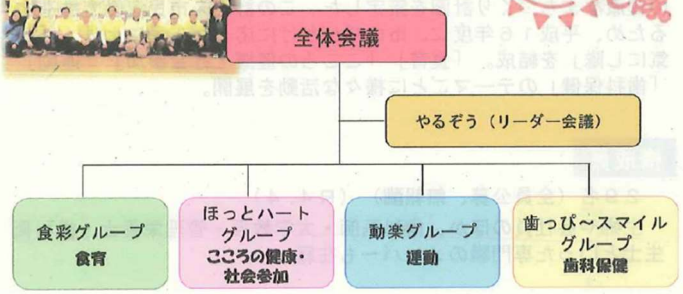
平成１５年度に、公募市民で構成された市民会議と協働で第１次の健康なまちづくり計画を策定した。この計画を市民協働で推進するため、平成１６年度に、市の呼びかけに応じた市民により、「元気にし隊」を結成。「食育」「こころの健康・社会参加」「運動」「歯科保健」のテーマごとに様々な活動を展開。

構成員

２９名（全員公募、無報酬）（Ｒ４．４）

主婦や会社員のほか、歯科医師・大学教授・管理栄養士・歯科衛生士といった専門職のメンバーも在籍。

組織体制



活動事例　食彩グループ（食育）

活動事例　ほっとハートグループ（こころの健康・社会参加）

活動事例　動楽グループ（運動）

活動事例　歯っぴ～スマイルグループ（歯科保健）

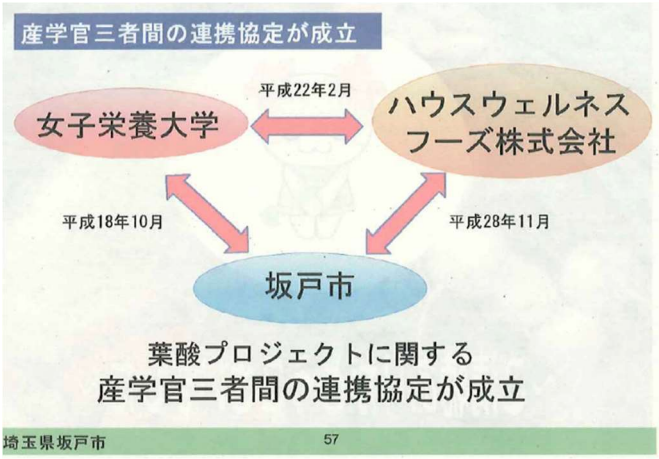
2. 多面的な展開について

市内の大学との連携

『坂戸市民の健康づくりに関する連携協力協定』
「女子栄養大学」「城西大学」「明海大学」と締結。
(平成 18 年 10 月)
・葉酸プロジェクトや食育プログラム等で連携強化。
・講師の派遣や学生の事業協力。
『坂戸市と城西大学との相互連携に関する基本協定』
「城西大学」 と締結。（平成 20 年 6 月）
・市が開催する講習会等に講師を無償派遣
・大学の授業で市職員が講義 など

民間企業との連携

『葉酸プロジェクトに関する連携協定』
「ハウスウェルネスフーズ株式会社」（兵庫県伊丹市）と締結。
(平成 28 年 11 月)
葉酸プロジェクトの推進に関すること
葉酸の普及啓発に関すること。
その他市民の健康増進に関すること。
【ハウスウェルネスフーズ株式会社とは?】
・ハウス食品グループの企業として、「明日への健康な暮らしに奉仕する」
という企業理念を掲げ、健康食品事業を担っている企業
ウコンの力、C1000 ビタミンレモン、 新玄 「サプリ米」 など
「葉酸米」 は、 本市のふるさと納税謝礼品にもなっている。



ウォーキング・トレイル事業「アプトの道」

1. 地域の概要

平成１８年度に旧安中市と旧松井田町が合併して、今の安中市になる。事業の立ち上げは平成７年当時で、旧松井田町の概要の説明となるが、群馬県の南西部に位置し町の西部は長野県との県境で碓氷峠、南部に妙義山があり、古くより交通の要衝で中山道が通過し宿場町として栄えた町である。今でも、ＪＲの駅が３駅、高速道路のＩＣも２カ所ある。「アプトの道」の位置する碓氷峠周辺は上信越国立公園、 妙義・荒船佐久国定公園などがあり豊かな自然に囲まれている所となる。

2. 事業立ち上げ経緯

旧松井田町では、平成元年から『碓氷ルネッサンス』をテーマに確氷峠を中心とした歴史・文化・自然を活かしたまちづくりに取り組んできた。また、平成 5 年に旧文化庁(現:文部科学省)から、碓氷峠鉄道施設を近代文化遺産として重要文化財に指定され、指定対象は碓氷第三橋梁(通称めがね橋)を含む 5 基の橋梁である。そして平成 6 年に同区間に残る隧道１０カ所と軌道用敷地、並びに丸山変電所が追加指定を受ける。すべてがレンガ造りでそれぞれデザインを変える等の工夫がありすべてが残っているということで、認定を受ける。ウォーキング・トレイル事業、アプトの道は、平成８年度旧建設省(現:国土交通省) より事業採択を受け碓氷峠に係わる峠文化を中心とした貴重な文化遺産、恵まれた自然を中心に文化財の保全と利活用を目的とした事業です。

3. 事業経過

「アプトの道」 遊歩道整備に平成８年度より建設省(現:国土交通省)補助事業として採択されスタートし、平成１３年度までにＪＲ横川駅から碓氷第三橋梁(めがね橋)までの 4.7km 間が完成し遊歩道として供用を開始する。その後、平成２０年度から継続事業として碓氷第三橋梁(めがね橋)から旧熊ノ平駅までの１．２km (隧道 5 カ所、橋梁 4 基)の整備が平成２３年度に完了し遊歩道アプトの道として供用を行っている。

◎アプトの道遊歩道
整備延長 L ＝ 5.9km
総事業費 679,245 千円
トンネル部（10 箇所）
橋梁部（12 箇所 カルバート橋梁含）
◎工事内訳

●第一期工事 L=4.7km
（横川～めがね橋間 平成 13 年 4 月供用開始）
トンネル部（5 箇所）
橋梁部（5 箇所 ※カルバート橋梁含）
事業費 485,395 千円
●第二期工事 L=1.2km
（めがね橋～旧熊ノ平駅間 平成 24 年 4 月 1 日供用開始）
事業費 193,850 千円
⇓
※平成 24 年 4 月 1 日
市道アプトの道遊歩道
（めがね橋～旧熊ノ平駅）供用開始

隧道内舗装整備状況

第六橋梁付近整備状況

アプトの道観光状況

4. 碓氷峠鉄道文化むら周辺整備について

【碓氷峠地域の概要】

横川・坂本地域は長野県境に碓氷峠があることから、古くから交通の要衝として栄えてきた場所です。江戸時代には中山道に碓氷関所が設けられ、町内には 2 箇所の宿場が形成され街道の宿場町として栄えました。

近代に入り、明治 26 年に信越本線横川～軽井沢間 11.2km が開通しました。日本最急勾配路線のこの区間を運行するため、「アプト式」が採用され、横川のこの場所にアプト式機関車の車両基地が建設されました。昭和 38 年には粘着運転方式に変更になりましたが、引き続き鉄道の町として繁栄してきた地域です。こうした背景の中、平成元年 1 月の政府・与党申し合わせにより、長野行き新幹線開業後の横川・軽井沢間の鉄路廃止、代替輸送機関としてバス運行が決定し、平成 9 年 9 月末をもって廃止となりました。

旧松井田町では鉄路廃止について、一貫して反対の立場をとってまいりましたが、社会情勢、環境の変化を踏まえ横川・軽井沢間に係る広域的な地域振興整備について、平成 9 年度に「横川・軽井沢間周辺整備等推進計画」を取りまとめました。

【横川・軽井沢間周辺整備等推進計画 】

① 碓氷峠を擁する交通の拠点を活かし、文化の行き交う「峠のまち」をテーマに地域振興を図ることを目的とする。

② 群馬県西毛地域、 特に碓氷峠周辺地域の資源の活用や、信越線(高崎～横川)間の活性化を図るため、地域振興策を展開し、信越本線及びその沿線地域の振興を図っていく。

○具体的な整備計画

厳しい社会情勢を認識し、 地域住民、 地元企業等が計画段階から参画し、 現実的な計画を作成することで、 その実施を通して地域活力を創造する。

○四大拠点づくり

・横川駅周辺 鉄道を中心としたテーマパーク等の整備

・坂本地区 →碓氷峠の森公園（峠の湯、くつろぎの郷）整備、坂本宿町並み復元等

・旧丸山変電所周辺→変電所の改修及び利活用

・横川 SA 周辺 ハイウエイオアシス

・4 大拠点のネットワークづくり アプトの道整備など

○施設整備の必然性

2 大拠点づくり（鉄道文化むら、峠の湯等）を優先して整備を行い、信越線廃止後の地域力の低下を防ぎながら、 「峠の文化と鉄道」をテーマにしたまちづくりを広く情報発信していくことが必要とされていました。

特に鉄道文化むら整備については、 廃止後の運転区、研修庫を含む構内利用や機関車や車両などの整理の問題から JR の支援を受けられる期間的な制約があり、 整備を急ぐ必要がありました。

【碓氷峠鉄道文化むら整備事業】

碓氷峠鉄道文化むら

○名称:碓氷峠鉄道文化むら
（愛称: ポッポタウン）
○施設概要:「見て、触れて、体験できる」をテーマに碓氷峠の鉄道の歴史と本物体験できる鉄道のテーマパーク
○所在地: 安中市松井田町横川 407 番地 16
○交通手段
電車 JR 信越線「横川駅」徒歩 1 分
自動車 上信越自動車道 「松井田妙義 IC」10 分
○事業主体: 安中市（旧:松井田町）
○運営管理（一財）碓氷峠交流記念財団（平成 11 年 3 月 4 日設立）
（旧:財団法人碓氷峠交流記念財団）
○面積 ： 44,000 ㎡

○主な園内施設
・鉄道資料館:旧運転区建物を改築し、碓氷峠の鉄道の歴史を展示鉄道模型ジオラマや売店、財団事務室など
・鉄道展示館: JR 時代の研修庫を利用して「EF63 機関車」の展示や本物の運転席で体験する碓氷線のシミュレーター
・屋外施設:
蒸気機関車の体験乗車 園内を 1 周する英国製機関車
ミニ SL 子供に人気の小さな SL
車両展示 貴重な車両 24 両を屋外展示（一部内部開放）

展示車両

トロッコ列車 旧信越線を使用して、鉄道文化むら～峠の湯間 2.6km を運行するオープンデッキ形トロッコ列車（平成 17 年度から）
ＥＦ６３運転体験 講習を受け免許を取得すると本物の機関車を運転 できる鉄道文化むらならではの体験施設

○事業費:約 21 億 3000 万円
特定地域おける若者定住促進等緊急プロジェクト
（自治省、 現:総務省）
（地域総合整備事業債 17 億 0020 万円）
碓氷峠の森公園整備事業と一体で、プロジェクトの指定を受け実施
信越本線横川駅周辺整備事業補助金 （県補助金 3 億 6000 万円）
○事業年度:平成 9 年～11 年度事業

【トロッコ列車「シェルパくん」整備事業】～拠点連携整備～

○内 容:鉄道文化むら園内遊具
鉄道文化むら～旧丸山変電所～峠の湯の 3 駅 （所要時間: 20 分）
延長 約 2.6km、 高低差 94.7m
○整備年度:平成 16・17 年度
○事業主体:安中市(旧:松井田町)
○運営管理 (一財)碓氷峠交流記念財団 （旧:財団法人碓氷峠交流記念財団）
○事業費: 2 億 6200 万円
群馬県市町村建設事業資金貸付金 1 億 5000 万円
ふるさと振興基金 9900 万円
その他 1030 万円
○車両編成
動力車 (JR から譲渡)、 客車 2 両(新造)
○動力車新造 急勾配対応型ディーゼル機関車 (35t)
平成 24 年度完成 約 1 億円

トロッコ列車「シェルパくん」

【碓氷峠の森林公園整備事業】

① 交流館「峠の湯」 日帰り温泉施設
② くつろぎの郷 「コテージ」 「体験実習館」 「貸し農園」
③ 峠の森公園
○交通手段 電車 JR 信越線 「横川駅」下車、車で 10 分
自動車 上信越自動車道 「松井田・妙義 IC」 15 分
国道 18 号線、横川より 「旧道」経由
○所在地:安中市松井田町坂本 1225 番地外
○事業主体: 安中市 (松井田町)
○管理主体 財団法人碓氷峠交流記念財団 (平成 13 年 4 月 1 日より)
○面積 ： 45,000 ㎡
○事業年度: 碓氷峠の森公園・交流館 平成 8 年～12 年度
くつろぎの郷コテージ 平成 8 年～10 年度
○事業費:約 22 億 6000 万円
・交流館「峠の湯」・公園整備 16 億 6000 万円
補助事業の種類: 特定地域における若者定住促進等緊急プロジェクト
(地域総合整備事業債 12 億 5000 万円、
基金 1 億円、
一般財源 3 億 1000 万円
・くつろぎの郷コテージ等 6 億円
・補助事業の種類: 山村振興等農林漁業特別対策事業 （農林水産省）

交流館「峠の湯」

くつろぎの郷「コテージ」

【財団法人碓氷峠交流記念財団の設立と運営】

〇財団の目的

①碓氷峠地域の鉄道史に係る社会教育事業と鉄道遺産の保存普及事業

②峠の歴史、街道文化の普及啓発及び保存管理事業

③鉄道文化むら・碓氷峠の森公園の管理・運営事業

・出捐金:2 億円　「旧松井田町」　が出捐

・設立:　平成 11 年 3 月 4 日（許可:　群馬県知事）

平成 25 年 4 月 1 日（財団から一般財団法人へ）

〇設立の経緯

碓氷峠鉄道文化むらは町が整備した公の施設であるが、碓氷峠の鉄道の歴史を保存普及する施設と共に「見て、触れて、体験できる」をテーマに整備され、交流人口の増加を通した地域活性化を整備方針としているため、その設置目的から管理運営の基本は集客性が重要であるため、行政直営では十分に機能しないと判断した。そこで、地方自治法の規定による公の施設の管理運営を受託し、管理受託者による利用料金徴収により自主経営を行い健全経営と地域活性化への波及を目指して、旧松井田町が出捐して財団法人を設立することとなった。

【施設による効果・成果及び課題】

「鉄道文化むら」「峠の湯」施設共に、予想を上回る入園(館)者があり、施設の管理運営面では順調に推移してきたが、ここ数年は入り込みにやや陰りがみえ、新たな集客施設やリニューアル等の展開が必要な時期となっている。また、地域振興の核となる施設として、雇用や経済活動等には一定の効果をもたらしているものの、地域との連携、地域づくりや市民参加等については不十分な面もあると考えている。

【今後の動向】

碓氷峠地域の観光客集客におきましては、JR と連携して高崎駅～横川駅間の蒸気機関車や特別列車の運行、新聞社、団体、 旅行会社と共同したイベントの企画や受け入れにより、当地域に約 50 万人が訪れている。最近では隣接する富岡市の「富岡製糸場と絹産業遺産群」が平成 26 年 6 月に世界遺産登録されたことから、これに併せて安中市、富岡市、 軽井沢町による観光連携協議会を平成 26 年 4 月に発足させ、県境を越えた広域観光連携の取り組みを始めている。

こうした影響から、近代化遺産として関連のある 「めがね橋周辺」への観光客が増加傾向にあり、 平成 26 年 4 月にはめがね橋駐車場内に県の協力を受けトイレ施設整備を行った。しかしながら、地域での稼ぐ力とはなっておらず、また、火災により閉館中であった「峠の湯」 を 「鉄道文化むら」と並ぶ観光の拠点として再建し、受け入れ体制の強化をはかっていますが、碓氷峠周辺全体での観光客の受け入れ体制は、情報発信や認知度からして、まだ不十分であり、地域振興を考えた場合、地域との連携や施設をどう活用するかなど、観光の磨き上げが最重要課題と考えている。